

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	2018. 1. 15.
主管学校名	佐賀大学教育学部附属幼稚園
P T A 会長名	古野 健太郎

実施概要	主管校	佐賀大学教育学部附属幼稚園
	交流校	佐賀大学教育学部附属特別支援学校
	実施活動名	人形劇団トロッコ「三びきのこぶた」観劇
	実施日時	平成 29 年 5 月 31 日水曜日
	実施場所	佐賀大学教育学部附属幼稚園ゆうぎ室
	実施目的	障がいのある子・特別支援学校の先生・未就園児、様々な人と一緒に楽しい時を過ごす
	実施内容	人形劇を、特別支援学校の子ども達・未就園児の子ども達、みんなで見る
	実施方法	特別支援学校の子ども達と先生・未就園児と保護者、いろんな人に声をかけた
	参加人数	園児 76 名・附属特別支援学校小学部 4 名・附属特別支援学校教員 2 名・未就園児 19 名・その保護者 17 名・本園保護者 8 名・本園職員 8 名 計 134 名

報告事項	内容	<p>滋賀県から毎年、人形劇団トロッコに来てもらっている。とても面白いので、昨年から、未就園児親子にも、一緒に見ませんか?と声をかけている。今年は附属特別支援学校の子ども達にも声をかけた。人形劇を見る楽しい時間をいろんな人と一緒に過ごすことは、園児にとってもとても有意義なことではないかと思った。</p> <p>附属特別支援学校には、校長先生を通して声をかけた。</p>
	結果	<p>附属特別支援学校の小学部の子ども達が 4 名と先生が 2 名、来てくださった。じっと座って見入っているようだった。附属特別支援学校の先生に感想を書いていただいた（感想 児童生徒）</p> <p>未就園児の親子も 17 組、来てくださった。こちらは幼いので、ちょっとうろろろする子もいたが、おおむね楽しんでいるようだった。</p> <p>園児・本園保護者・職員は、毎年のことであるが、大爆笑で、中には涙を流しながら笑い転げている人もいた。</p> <p>本園園児は、作業製品のバザーや絵本の読み聞かせで、特別支援学校の子ども達が来ることには慣れているので、何の違和感もないようだった。</p> <p>また、本園保護者に感想を書いてもらったら、特別支援学校の子ども達と一緒に時間を過ごすことを、とても肯定的に捉えていることがわかった（感想 保護者）</p>
	所感	<p>いろんな機会にいろんな人と接することは大切なことだと考えている。特に、楽しい時間を共有し、一緒に笑い合うことは、とてもいい経験だと感じる。来年も、人形劇観劇に、特別支援学校の子ども達を招待したい。ただ、大勢の人がいることに苦手な子ども達もいるようで、あまりたくさんは来てもらえないかもしれない。</p>

添付書類



当日の写真

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	2018. 1. 15
学校名	佐賀大学教育学部附属幼稚園
学年	

学年 3年生、4年生、5年生、6年生
各学年1名 (合計 児童4名) 職員2名引率

感想

「3匹のこぶた」の人形劇は、こぶたたちやオオカミの動きがとてもおもしろく、ユーモアたっぷりにお話が進みました。見ている子どもたちは、とても楽しそうで、時には笑い声をあげながら夢中で見ていました。

佐賀大学附属特別支援学校

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 2018. 1. 15

学校名 佐賀大学教育学部附属幼稚園

・子ども達がお話の中にグッと引き込まれていると感じました。先生方や保護者の劇も楽しいのですが、やはり本物のすばらしさを体験する事も必要だと思いました。

特別支援学校から大きいお兄さん・お姉さん達も遊びに来ていました。普段も作業製品のバザーで、時々幼稚園に来ているので、子ども達は特別な事ではなかったのではないかと思います。小さいうちから交流を重ねることで、お互いの理解が深まるのだと思いました。（年中組男児の母）

・その日、息子は朝から三輪車に乗りたかったようで、それが叶わず不満そうに席に座っていました。開演直後はぐずりださないか不安で、息子のいる辺りを何度も確認しました。

しかし、その不安は全くの杞憂に終わりました。お人形のボール遊びの劇に見入り、わんぺい君が登場するところには、私自身も夢中になっていました。笑い声や元気な声があちこちで聞こえ、園児も親も特別支援学校の小学部の子ども達も先生方も、皆一緒に楽しんでいるようでした。

息子は帰宅後、三びきのこぶたの狼に「ぶたの耳、あげる」と言われたことを嬉しそうにおばあちゃんに報告していました。そして、園児である兄がわんぺい君のセリフを真似し、「小学校行かんと幼稚園残れー」「天井やー」「おっぱい」を連発。お客さん役の弟が笑う、という劇団ミニトロッコが何日も上演されました。（年中組男児の母）

・楽しみにしていたトロッコさんを、今回は特別支援のお友達も一緒に観劇できてよかったです。

みんな大好きなわんぺい君に会えて笑顔でした。

カタミさんとわんぺい君の2人で行われる掛け合いは、子どもから大人まで楽しめて、会場は笑い声であふれていました。

来年また一緒に楽しい時間を過ごせたらいいなと思いました。（年長組男児の母）

・子ども達に大人気のわんぺい君、その動きとお話のペースにあつという間に引き込まれてしまいました。

附属特別支援学校の先生方・お兄さん・お姉さんと椅子を並べた子ども達も、とても楽しそうに笑い声をあげていました。

親子ともに楽しい時間の共有ができ、帰ってからも子どもと家で「わんぺい君」の話題で楽しめました。ありがとうございました。（年長組男児の母）

・小道具やセットに細かい工夫がされており、親子共々楽しめました。

私自身が特別支援学校で働いていました。そういう体験から、附属特別支援学校の生徒さんにとって、たくさんの人が集まる場所はとても緊張するはずですが、しかし、立ち上がったたり退室されることなく、最後まで楽しんでいたのではないかなあとと思いました。（年中組女児の母）

・2歳になる下の娘も連れて行っていたのですが、見入るといのはこういう姿なのか…と感心する程じーっと見ていました。

年中になる娘は、狼の事が怖くなり担任の先生から抱っこされ、ゆうぎ室の後ろの方から見ていました。怖い、けど目はしっかりステージを見ている我が子に、うふと、つい微笑みそうになる私がありました。劇団トロッコさんは、お話が大好きで、そして人形が大切に、子ども達に真剣にお話を届けて下さるので、私も大好きです。ワクワク・ハラハラ、この時も沢山心を動かされ、楽しかったーあー！！と心が満たされた事を覚えています。

特別支援学校の生徒の方々も観にいらしていましたが、沢山の人が集まる中でも不快に思われている様子はなく、じっと観られている姿が目に入り、楽しく参加されているように思いました。

バザーや絵本の読み聞かせ等で出入りされる事もあり、交流の積み重ねも影響しているのかな、とも思いました。（年中組女児の母）